闘いなくして安全なし

2023.07.18
Ｎｏ．４０６

〔発　行〕動労千葉を支援する会
千葉市中央区要町２－８ＤＣ会館
http://dourousien28.kane-tsugu.com/renrakuban/
dc-info@deluxe.ocn.ne.jp

ジョブローテーション、乗務員勤務制度改悪、ダイ改合理化、ローカル線切り捨て反対！　定年延長と 65 歳まで働ける職場を！

運転台の監視カメラ撤去を

6月30日、動労総連合は運転台におけるカメラ設置の目的・根拠・問題点の解明とカメラ設置の中止を求めるＪＲ本社との団体交渉を開催しました。

乗務員への大きな負担

会社はカメラ設置理由について「運転士の体調不良等による事象の発生」をあげています。

しかし、新たにカメラが設置されれば、乗務員は表情や動きを前後から監視され続けます。大きな緊張とストレス、負担を強いられます。それは乗務員を精神的に追い詰め、鉄道の安全破壊につながるものです。

兼務・融合化の撤回を

そもそもこの間、乗務員に対して付加時間の削り取りや業務融合化―統括センター化・兼務化、「その他時間」設定などが強行され、乗務以外の業務を行わせるようになっています。

乗務員と列車の安全のために必要なのは、監視ではなく融合化の撤回と行路緩和、十分な睡眠時間の確保です。監視カメラはただちに撤去すべきです。

6/30 団交・会社回答概要

＜「次世代ＥＢ装置」とは＞

○現行ＥＢ装置は運転上の操作を一定時間行わないと警報が鳴動し、さらに操作がない場合に非常停止する。

○「次世代ＥＢ装置」の機能として①検知、②通知、③動作の３段階を考えている。

＜「検知」「通知」「動作」の概要＞

○「検知」:乗務中に停止位置不良が続く、レバー扱いを間違うなど、機器の異常操作が繰り返し発生した場合に「検知」する。

○「通知」:「検知」した場合に通知を受ける「乗務員状況把握システム」。体調不良の前兆を、各現場のモニターでリアルタイムに把握する。

○「動作」:将来的には列車を遠隔で操作し、非常停止させる装置として検討。

＜今回のカメラ設置の目的等について＞

○乗務員の体調や前兆を把握するため、カメラの機能や撮影角度、光の当たり具合等を試験する。

○２台設置のうち、１台は普通のカメラ、もう１台は赤外線カメラ。実施時には１台設置を想定。

○カメラ設置はあくまで試行のため、体調不良発生時の取り扱いはこれまで通り。

○半年程度、試験して判断する。

＜モニターする箇所について＞

○今回は本社で月に２～３回程度モニターし、内容を把握・検討する形で進める。

○実施する場合は各現場でモニターしてもらう。